「メゾン」

作・米内山陽子（チタキヨ）

登場人物

父

母

息子

舞台

夫婦ががんばって買ったマンションのダイニング。

四人掛けのテーブルには、少し背伸びをしたテーブルクロス。

椅子が四脚。

季節の花が飾られている。

夫と妻が向かい合わせにテーブルに座っている。
子どもが登場し、ダイニングテーブルに軽く腰掛ける。

息子　ここは実家です。僕はこの家の息子で、そして、ここにいるのは父と母です。
父　父です。
母　母です。
息子　僕みたいな子どもがいる割には若い……というか、無理ある感じです。どう見ても同世代。勘の良い方はお気づきだと思うんですが、ここにいるのは若かりし頃の父と母です。
父　アラフォー突入です。
母　ギリ、アラサーです。
息子　ここは実家とはいえ、分譲のマンションで、僕が生まれた時に、両親ががんばって買ったマンションです。ちなみに、三五年ローンです。
父　おまえが三五になるまでローンは続く。
母　繰り上げ返済すればいいじゃん。
父　簡単に言うけどさ、君が仕事辞めてて、こいつにも金がかかって、俺の給料上がらないんだよ？　どうすんの？
母　……切り詰めるよ
父　じゃあパンパースやめない？
母　はぁ？
父　西松屋のあのやっすいやつでいいじゃん。
母　そしたらお尻がかぶれちゃう。合わないんだよ、あのやっすいやつ。
父　それでも……もうちょっと安いのがあるでしょ。
母　知らないと思うけど
父　なによ
母　試したからね、全部。
父　全部？
母　全部！　マミーポコ、ムーニー、グーン、全部通って、結局パンパースに行き着いたの！
父　あいつ、尻グルメだな
母　繊細なんだよ
父　じゃあ布にしたら
母　えやだ。

父　なんで。環境にもいいし、なんつーか、自然な感じだし。
母　そのオムツ洗うの誰よ
父　俺もやれるときはやるけどさ
母　じゃあわたしじゃん
父　そうなるね
母　却下！
父　なんで～
母　そもそも紙おむつ全部試したことすらわかってないやつにオムツのことやかく言われたくない。
父　俺おむつ換えてたのになぁ
母　節穴なんじゃん。
父　何も言えないわ

息子　僕が生まれる前、結婚した二人が住んだのは、１ＬＤＫ、風呂トイレ別のアパートでした。子どもを作る気のない間取りだと言うことは僕でもわかります。

母　できちゃったんだけど
父　マジか
母　マジだ
父　（諸手を挙げる）……やった
母　……なにそれ
父　……嬉しい
母　なにそれ
息子　そのアパートに住んで二年で僕は誕生し、張り切ってこのマンションを買いました。３ＬＤＫ。三五年ローン。
父　お……おおお……！

息子、たどたどしく歩き、力尽きて座る。

父　ねえ！
母　なに？
父　歩いた。
母　呼べや

父　一瞬だったから……

走り出す息子。

母　ちょ、ちょっとまって……
息子　だっだっだ！　だっだっだ！
母　はいはい。だっだっだだね。
父　だっだっだ！
母　あんたはいい

両親と手を繋ぐ息子。

息子　あれなーに
母　カメラ
息子　カメラー？　なんでー？
母　写真撮るから
息子　なんでー？
母　幼稚園入るから
息子　なんでー？
母　三歳だから
息子　なんでー？
母　生まれて三年たったから
息子　なんでー？
母　えーとね
父　なんで一々答えるの
母　一々答えた方がいいでしょ

息子　戦隊レッド！　びしゅんびしゅん！
父　ぐわぁ！　やるなぁ
母　あのさぁ
父　おー
母　ランドセルどうするよ
父　おふくろ張り切ってたけど
息子　おふくろ！　たまぶくろ！

母　やめんか
息子　げはは！
父　「出させてちょうだい！」って言ってたよ
母　いや～、それは助かるんだけどさぁ。
父　なによ
息子　ボウケンパンチ！
母　う～ん
息子　お父さんやられて！
父　ぐわぁ！　どした？
母　ねえ、ランドセル何色がいい？
息子　レッド！
父　レッド！？
息子　レッド！
父　レッドかぁ
母　わたしはそれでもいいけどさぁ、（お義母さん）が何か言うんじゃないかなって。
父　あ～……
母　でもさぁ、あんな何万もする鞄買ってもらえるのは助かるし
父　金だけもらう？
母　写真送るでしょうよ。その後何か言われるでしょ
父　まあそれは俺が何とかするよ。ほんとに赤がいい？
息子　レッド！　おしっこ！
父　いってこーい。
息子　もれるもれる～

息子トイレへ。

父　いじめられたりしないかね
母　わかんない
父　勝手なこというやつはいっぱいいるからねぇ
母　色に性別はありません！　って言って回りたい
父　そもそもランドセルの必要あるんですか！　ってのもね
母　わたしもあんな値段の鞄持ってないのに
父　俺も持ってない

母　わたしさぁ、仕事するね
父　おお。
母　繰り上げ返済もしたいしね。あんな値段の鞄も欲しいしね
父　そういうの興味あったっけ
母　いんや〜

息子出てくる。

息子　僕のランドセルは何らかの圧力が働いたのか、黒でした。事情はよくわかんない。僕は子どもでしたから。ただ、縁取りは深い赤でしてあって、多分、ここが歩み寄りポイントだったのだと思います。今では。

息子、椅子に座ってゲームをやる。
買い物袋を持った母が帰宅する。

母　ただいま〜！
息子　んー
母　宿題は？
息子　やったー
母　まるつけいる？
息子　いー
母　晩ご飯コロッケ弁当だから。
息子　ソースドブドブにしていい？
母　え〜じゃあ一個だけね
息子　しゃー！

母は弁当をふたつ、テーブルに出す。

息子　あれ？
母　なに？
息子　お父さんの分は？
母　お父さん遅くなるからいらないって。音読は？
息子　ある（と、立ち上がり）

母　今？　後で聞くよ？
息子　すぐ終わるよ

息子、教科書を開いて読む

息子　「ちいちゃんのかげおくり」
母　ストップ
息子　なんで～
母　それはアカンやつ。ご飯の後に聞くから。ほれ、食べよう
息子　ソースドブドブ？
母　一個だけ
息子　しゃー！
二人　頂きます。

父と息子のキャッチボール。

父　学校どうだ
息子　楽しいよ
父　誰と仲いいんだっけ
息子　え～……みんな
父　みんなって
息子　言ってもわかんないじゃん
父　そんなことねぇよ
息子　じゃあ俺のクラスのやつ誰がいるでしょう
父　え～……とね
息子　じゃあ先生の名前はなんでしょう
父　鈴木！
息子　それ四年生のときだよ。去年。
父　そっか
息子　お父さんさぁ
父　うん
息子　俺受験したい
父　受験？
息子　うん。

父　なんで？
息子　誰もいない学校に行きたい
父　え？（投げかけて止まる）
息子　（泣くのを我慢しながら）俺、学校行きたくない……
父　……行かなくていい
息子　……ほんと？
父　おう。受験もしよう。
息子　ごめんなさい
父　何を謝ってんだよ。こういう時は
息子　ありがとう

母　いじめ？
父　結構前からだって
母　ごめん
父　なんで謝るの。君らはこういうとこ似てるな。
母　気づけなかった。
父　あいつなりに気を使ってんだよ
母　気を使わせちゃった
父　とにかくしばらく休んでいいって言った
母　それは、うん
父　とは言え昼間一人っきりになるんだよなぁ。
母　あ～、まもなく繁忙期だわ……
父　俺も
母　有休何日残ってる？
父　えーとね、結構ある。
母　わたしも。
父　あと、なんかフリースクールみたいなの探しておく
母　とりあえず明日午後半休取れる？
父　取る。
母　わたしも取るから、学校行こう。
父　俺が電話でアポ取るわ
母　わたしやってもいいけど
父　残念なことにさ、こういうことは男の声の方が良かったりすることあるから。

母　ありがと
父　うん。あ……担任の名前わかんねぇ
母　まじかよ
父　ごめん
母　佐藤。
父　佐藤。
母　五年二組な。
父　二組。

息子　同じマンションに同級生が多かったので、僕の不登校と学校への抗議はすぐに話題になり、両親は多分、針のムシロだったんじゃないかなって思います。幸い隣の学区に転校ができ、そこで友だちができました。友だちと塾へ通い、あいつらと同じ中学になりたくない一心で受けた中学受験は、成功しました。

母　入学金がえらいこっちゃ
父　見せて
母　授業料半年分一括だって
父　えらいこっちゃ
母　やべえ
父　やべえ
母　三五年ローンが縮まんねぇ
父　馬車馬モード入るしかねぇな
母　馬車馬モード入ろう

息子　お父さんとお母さん、仕事何してんだっけ
両親　会社員
息子　会社って言ってもいろいろあるじゃん
父　日用品メーカー
母　広告リサーチ
息子　それ何してるとこ？
父　消臭剤とか脱臭剤とかカイロとか作って売ってる
母　ＣＭとかポスターとか宣伝がどのくらい効果あったか調べる
息子　それは大学行かなきゃダメ？

父　まぁ、そうなぁ
母　う～ん。でも行きたければ行くといいんじゃないの
息子　ふ～ん
母　なんで急にそんなこと聞くの
息子　別に
両親　……
息子　おやすみ

母　出たな
父　出た
ふたり　「別に」
母　最近顎で喋るし
父　なに顎って
母　こう（やってみせる）「あー」「あ」「あれ」
父　生意気……！

息子　中学に上がって、僕は両親とあまり話さなくなっていきました。そもそも両親は多忙で、僕も部活に入って忙しくしていました。部活は、クイズ部です。たくさんの知識を頭に詰め込むのはもちろん、早押しのために腕立てしたり、走り込みもします。僕の生活の中心はもはや、家の中にはありません。コロッケをソースドブドブにもしません。体育祭も文化祭も両親が来るとちょっと……かなり、恥ずかしい。若い僕にはやがてこの家から出て行き、そこで居場所を見つける未来ばかりを見ていました。

母　どうしよう、わたし、ガンかもなんだって
父　嘘でしょ
母　嘘じゃないんだなこれが。
父　え、治るでしょ
母　わっかんない
父　え
母　また話聞きに行くから
父　俺も行く
母　うん

父　あいつには、言う？
母　いーいー。まだ、うん、治ったら言おう。サプライズ的に
父　サプライズ。
母　ガンでした！　が、治りました！　的な
父　……いいね、それ
母　治りましたーって
父　てってれーって
母　治らなかったらどうしよう
父　治るよ
母　こっわ。こっわい。まじ超こわい。こっわ。

息子　何も知らされていなかった、僕です。母は時々家にいるようになって、今思えばそれは通院のだったのですが、僕は、なんか、うっぜぇ、って思ってました。家にいて、なんか足腰痛がって、ぼんやりしている母のことを。

母　お母さんさぁ
息子　……
母　出張行くことになったわ
息子　へー
母　結構長くなるけど
息子　行ってくれれば
母　うん。行くんだけど。大丈夫？
息子　は？　なにが
母　晩ご飯とか
息子　てきとーにやるし
母　洗濯とか掃除とか
息子　わかってるようるせぇなぁ
母　ちゃんとやれよー
息子　さわんなよ

息子、母から離れる。

父　じゃあお母さん送ってくるから。

息子　……
父　おい、顔出せよ
母　いーよいーよ
母　行ってきます！

父と母、家を出る。

息子　思春期は、敏感で、鈍感で、なんだかいつもと違う気がするけど、いつもと同じ態度を取って、見送りもせず、部屋にいました。時間になったら学校へ行って、部活して、友だちとカラオケ行ったりして、帰ってきて、まだ誰もいなくて、冷凍チャーハン温めて、クイズ番組見ながら適当に食って、風呂入って寝る。何かが違うことはわかる。だけどそれが何かわからなくて……

息子　いつ帰ってくんの
父　誰が
息子　母
父　ん～、いつだったっけか
息子　知らねぇの？
父　おまえも知らねぇじゃん
息子　知ってるわけないじゃん
父　なんか仕事次第で長引くとか言ってたけど
息子　それでもひと月以上経ってるじゃん
父　お母さんがんばってんだから、ゆっくり待とう
息子　母さん、今まで出張なんてなかったじゃん
父　部署が変わったんだろ
息子　いきなりこんな長い出張おかしいじゃん
父　なんだよ、今日はよく喋るな
息子　……家出？
父　なにが。
息子　母さん、家出した？
父　はぁ？
息子　なんかあったの？

父　……なんもないよ
息子　嘘だ
父　なんもねぇ。俺と母さんは今でも仲いいし、愛し合ってるしきもちわりぃ
息子　愛の結晶が何言ってんだ。
父　本格的に気持ちわりぃ
息子

母　ただいま
息子　……
父　おかえりは
息子　おかえり

母、がばっと息子を抱きしめる。

息子　離せよ
母　やだ！　寂しかった？
息子　は？　何言ってんの？
母　わたしは寂しかった！
息子　もう、なんだよ、はなせよー

息子は母から逃れる

父　サプライズしなくて良かったの
母　五年生存率九〇パーだよ
父　じゃあしてよかったんじゃないの
母　わたし変にくじ運いいじゃん
父　おお
母　こういう時に確率低い方引いちゃう人生だと思うわけ
父　まだ内緒？
母　まだ内緒。あの子が大人になったら
父　ハタチになったら？
母　生きてられるといいけど
父　生きてよ
母　生きたい

父　あのさあ
母　うん
父　愛してるよ
母　……やめてよぉ死ぬみたいじゃん
父　死なないでよ
母　生きる生きる。
父　生きる生きる。

息子　そして、父と母の大きな隠し事に気付かないまま、僕は大学受験に失敗しまして。一浪しまして。大学に進学しました。もちろん、クイズ研究会に入りました。クイズはスポーツだ。いつか、クイズ出題者になって本を出版したい、みたいな夢を描いて、二十歳になりました。

父と母がテーブルを飾り始める。

息子　なにやってんの
父　パーティしようぜ
息子　いやいやいや、もうよくない？
父　だめだめ、二十歳のお祝いだし。
息子　それは先週してもらったじゃん
父　あれは寿司屋バージョン。これは家バージョン
息子　一回でいいよ
父　目出度いことは何度やっても目出度いだろ
母　じゃーん。

着飾った母が出てくる。

父　かわいい
息子　気持ち悪い
母　ほめてよ
父　かわいい
息子　痛い。なに息子の誕生日にはしゃいでるの。
母　はしゃぐでしょうが。あんたが二十歳なら、わたしも母歴二十歳じゃん。

父　あ、俺も父歴二十歳じゃん。
母　えー偶然
父　ハッピバースディ、トゥー……
母　ウィー（we）
父　ウィー（weとハンセン）
息子　ウィー（ハンセン）

息子　この日、母のサプライズは行われませんでした。何も知らないまま今年で三〇です。就職したし、結婚を意識している恋人がいます。母は……大学在学中に亡くなりました。ガンでした。父は僕の前で一回だけ泣いて、会社を定年まで勤め上げました。

父　ほんとはさ、おまえが三五になる頃までローンあったんだけど。今月で、完済。
息子　おお、おめでとう
父　いずれおまえのものになるね
息子　ああ、まあ、そう言うのは気にしないでよ
父　結局、五年繰り上げただけか。あんまり出世しなかったし。
息子　いやいや、お疲れ様でした。
父　お母さん、ガンだったんだよ。
息子　うん？　知ってるけど……
父　でも治った！
息子　は？
父　てってれー
息子　父さん、何言ってるの？
父　やりたかったなぁ

僕　退職して一年も経たないうちに父は亡くなりました。そして、ここは僕のものになりました。僕のものになったけど、一人きりになってしまった。両親の気配が残るリビングで、僕は眠ります。
ここは僕の実家です。いつか家族を持ちたい。そして両親がしてくれたように、愛したい。両親がしなかった長生きをして、孫とかみてみたい。その日も、僕はここで暮らしているのでしょう。

幕。